

件の取扱法や、(四)寺泊六日間の感慨に關する樗牛博士の叙述を批判修正せられた事や、(五)特に身延入山動機の詳細なる考察や、(六)戒壇思想に關する意見等は確かに博士獨開の研究であると思はれ、その觀察の鋭敏にしてその所論の穩健なる、從來の日蓮研究書と大に趣を異にした所多きを覺へ、將來に於ける日蓮研究者を刺戟し開發する所願の大なるものなるを信じた。

而して最後に私は將來(日蓮の祈禱に對する懷抱や、(二)日蓮の未來に對する現實的胸底が博士の熱心なる研究に依て早く益々明白に澄清調整せられん日を期待せざるを得ぬ。そして又「既定」と「異義」との關係(百四十五頁)に就ては常に痛切に迷暗と不安とに襲はれつゝある弱き私は、元より本書の性質上域外の問題ではあるが、何か機會あらばその關係解決の鍵鑰を與へられん事を御願し度いのである。(東京博文館發行、菊版五七二頁、定價貳圓參拾錢)(本田義英)。

精神科學の基本問題

哲學叢書
第八編

文學士上 野直 昭著

精神科學の研究者にとつて、其の基本問題の論究は、必要缺くべからざる重要な事柄であるに拘らず、問題の解決が極めて難しいためでもあらうが、未だ明確な概念が一般に行き渡つておらぬ際に、本書の表はれた事は、先づ以て度費に堪へない。本書は、著者が其の序文の冒頭に於て明かに斷はれて居らるゝ様に、ウン卜の論理學第三卷の始めにある、第一章

Die allgemeinen Grundlagen der Geisteswissenschaften

新著紹介

全部を譯出されたものである。『本國のドイツ人すら難解とし、無味とするウン卜の思想』を、極めて忠實に、しかも、平易に譯出しようと試みられた努力の跡は、到る處に見受けられる。もとよりウン卜の思想其ものが極めてわかりにくいから其の忠實なる翻譯に向つて、「平易」とか「面白味」とかを要求するのは、要求する方の無理であらう、原著が既に精讀を要する論述である以上、其の翻譯たる本書に對しても、よろしく粗讀を讀まねばならぬ。そして難解な原著をかくまでに、明確に譯出された譯者の努力に多大の敬意を拂ふべきだと思ふ。殊に所々に註釋を加へて本文の解釋に萬全を期せられておる事は、たゞに原著に對して忠實なやり方である許である許りでなく、讀者に向つても極めて親切な態度である。篤學なる著者の努力の結晶とも見るべき本書を是非精讀せん事を御すゝめする。(東京神田區神保町一六、岩波書店發行、壹圓貳拾錢、深田武)

ワオードの社會學

藤森達 三譯

社會學は元來未だ幼稚の學問であるが、日本に於ては殊に幼稚な學問である。從ひて之に關する著書譯書の數も極めて乏しい、此點からして考ふると漸なる社會學書の公刊は我國斯學界の爲に甚だ喜ぶ可き事と云はなければならぬ。それは如何なる價值如何なる程度のものたるを問はない事であるが、殊に其内容が優秀のものなればなほ更の事である。此意味に於て吾人は此「ワオードの社會學」の發行を深く學界の爲に祝し譯者に向ひて其勞を多とせざるを得ない。原著はワオードの體系をデイレレーが約説したる